

疾れ痛若をうち忘れ。傍邊にあぐらの薙刀杖杖にして。隻御を扯擣  
く。御前より。雲に日の丸は後だる。軍扇額と椎岡き。隻手に薙刀  
うち揮て。墨味する聲はある。より掀起。叶妙變へ。昨日比曉矣。法歌  
わろびて。宗門のま弘ざりに御繁昌と。禱謡も。福ひかづみ。隻御りそ。最  
あり。けふ舞々れを。聖人御父子成寂まい。せ。宰家門下は個こまで。哈  
や。と。續峰は。声の夕悲嘆ふ。鶴易。魂まくらを。聆え。然ハ年磨參  
にあり。紀州ありける警社也。其年毎の六月四日。滝破頭と称号。紙旗垂て  
禮とし。それを。身は着。隻御。被むらめ。滝破の較と漏る。と。遠を例  
より。發る。遙門譚ハ。圓三門行と法化邪正。あきど。坐微仰る事  
れあり。同國高野の山中一。事の恩材ある。に。よ。て。象川。佐加井。代官  
まつ。松井。養國法印。よう。兵士。車三十有餘人。遙山中一。攀躋。然せる遺恨  
ある事に。外戸内戸を。お破ち。或ハ佛像法器を碎き。古老頑孽。等。擲  
し。手。猿藉み。し。る。と。一山の危険。ひ。と。謀せ。そんばあ。か。ば  
と。計。多く。潤嘉と。槍。而。し。ほ。り。二十餘人と。大。ふ。窮。待。爛解したる所。を。沈視  
ゆ。と。足。よ。う。と。見。や。え。こ。う。と。危険。ふ。餘人。推進て。一個も残さず。撃殺。し。り。信長公これと。聆。し。や。され  
て。懷怒。す。と。ひ。る。野山を攻。亡。と。被山の。西。方。に。あ。い。く。備塞。く。を。移  
す。よ。と。小葉。き。兵糧。移。移。置。退。く。軍勢。を。當。向。す。也。不。日。に。一。山。を。攻。陷。こ  
ん。と。か。機。車。か。り。る。山。荒。あ。き。に。驚。懼。ひ。以上。の。唯。祕。密。の。大。法。を行ふ  
て。信長の。余。被。引。ふ。を。如。じ。と。瀬山の。荒。僵。懸。く。因。心。ひ。肝。膽。を。碎。く。行  
き。くる。が。呼。肺。し。や。護。摩。煙。中。に。信。長。の。姿。の。現。生。た。る。が。全。月。益。に。深。強  
り。然。も。若。楚。ゆ。相。貌。か。う。り。是。三。七。日。の。満。む。る。正。年。天。正。十。年。六。月  
二。日。以。て。當。り。る。